

活 動 記 録 書

開 催 日： 令和 8 年 7 月 2 日(木) 天候 雨	開催テーマ： 「六浦の古刹上行寺住職のお話を聞く」
開催場所：金沢区六浦	記 入 者：横山美智男
参加人数：会 員 15 名 準会員 1 名 ビジター 5 名 計 21 名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 等）： コース：京急六浦駅集合～浅間神社～三艘町内会館（挨拶・説明）～上行寺（昇堂拝観・法話）（解散） かなり強い雨に降られ、当初の行程を変更し三艘町内会館と上行寺をメインに探訪した。集合は京急六浦駅、朝の挨拶は三艘町内会館に移動したのち行った。 六浦駅から線路沿いに歩くと右手に浅間神社がある。祭神は此花咲耶姫、富士山をご神体（浅間大神）とする信仰。富士と浅間は古語で同義であり、此花咲耶姫と浅間大神は同一視されている。明治41年（1908）瀬戸神社に合祀後も9月初めに祭礼を行っている。浅間神社北側には象ヶ谷と呼ばれた場所があった。かつて 三艘辺りは六浦湊として栄え、室町初期前後に象が宋から運ばれ珍しい動物で評判となり、この地は象ヶ谷と呼ばれた。象は上陸前後に絶命し、葬られた象塚があった場所は浅間神社裏辺りと伝わる。 そのまま線路沿いに進み三艘町内会館に到着。夏祭りが近づいており、周辺には提灯や案内ポスターが目につく。三艘は六浦町の字である瀬戸・睦・川・大道・三艘の五ヶ町の一つ。町内会館で集合挨拶をしたのち、町内会長から三艘の歴史や文殊菩薩座像に係わる丁寧な説明を受けた。 文永6年（1269）唐船三艘が称名寺にある一切経、青磁の壺、香炉、その他唐猫などを運んで接岸したので三艘という地名になったとの伝承がある。三度来航したからとも伝わる。三艘町内会館の文殊菩薩坐像は三浦郡浦郷領主朝倉能登守景高の持仏で追浜良心寺に祀られていた。良心寺は当初曹洞宗長心寺で、浄土宗に改宗し、景高夫人戒名から改名した。良心寺が改宗した時に本尊を阿弥陀如来としたため、文殊菩薩は三艘の良満寺文殊堂に遷された。良満寺は三艘谷戸にあったが慶安3年（1650）廃寺となり、本尊はじめ寺宝の諸仏像他は檀家とともに宝樹院高照寺に遷されたと伝わる。文殊堂は大正12年（1923）関東大震災で倒壊し、良心寺檀家総代大川段右衛門により三艘町内会館に安置された。会館内には文殊菩薩像に係る由緒の品や、祭礼に使う華やかな竜虎の水引幕、武者絵幕などが展示されていた。 会館傍には庚申塔がある。この辺りは明治初期頃まで三艘の集落の中心だった。侍従川に注ぐ支流が三艘と川の村境で三艘橋が三艘への出入口。庚申塔は疫病や不幸を防ぐ力があると信じられ他村から悪いものが持ち込まれないよう村の出入口や四辻に祀られた。 線路を渡り侍従川を渡り、住宅地を抜けて環状4号線に出て上行寺に到着。上行寺では住職から寺の由緒説明と法話をいただいた。 上行寺は創建建長6年（1254）。開山日祐上人、開基日荷上人（六浦の間丸（廻船 業者）荒井平次郎は中山法華経寺で受戒出家し妙法と号した）。日祐上人が 前身真言律宗金勝寺を上行寺に改名改宗したとも、日荷上人が日蓮宗に改宗したともいわれる。横浜市名木古木指定のカヤの木脇に、六浦妙法上人と台座に刻まれた日荷上人の石塔（伝）（文和2年（1353）建立）がある。妙法の夢枕に称名寺仁王像が現れ身延山に連れて行けとお告げがあり、称名寺住持との仁王尊と私財を賭けた囲碁に勝ち、二体を背負い身延山に納め、身延山の3本のカヤの木を持ち帰り妙法寺・上行寺・自宅に植えたと伝わる。法話は日蓮宗の教えに基づく、四苦八苦、六波羅蜜のお話などで日常生活にも通じる教えと感じた。本堂を出ると雨は止み、境内で挨拶し解散した。	
参加者の状況・意見など 朝は雨足も強く会員の参加者は少なめであった。探訪先を絞った分、屋内で詳しい説明を受けることができた。雨にもかかわらず好評で無事に探訪を終えた。	
次回の予定： ・8月14日(金)10時 金沢公会堂多目的室 座学DVD鑑賞「五木寛之の百寺巡礼」	